

ネットワークボード

今年1月、能登半島で起きた震度7という大地震では多くの死傷者、多くの被害が報告されました。そしてその復興の最中の9月21日、今度は豪雨が現地を襲い、人々の暮らしをさらに脅かしています。震災から10か月になろうとしている現在も、倒壊したままの家屋もあり、大雨によるがけ崩れもなかなか修復が進んでいません。中でも障がいのある人たちは、日常を取り戻すために多くの課題を抱えていて、まだまだ支援が必要という報道がありました。きょうされん（共同作業所全国連絡会）、日本障害者フォーラム（JDF）は能登半島地震支援センターを通して、現地の支援を行なっています。（編集部）

能登半島地震 豪雨被害に関する情報（抜粋）

●きょうされん

きょうされん

Q 検索

<https://www.kyosaren.or.jp/disaster/24890/>

●JDF 能登支援センター日報

https://blog.canpan.info/jdfshientercenter/category_5/1

○きょうされんの災害支援基金へのご協力をお願いします。

<郵便振替> 00100-7-86225

きょうされん自然災害支援基金口

<ゆうちょ銀行>

〇一九店(ゼロイチキュー店)

当座 0086225

キョウサレンシゼンサイガイシエンキキングチ



編集後記



2024年度の虐待防止・身体拘束適正化研修を実施しました。当日の参加人数は全体の半分強でしたが後日録画を配信して、ほぼ全員からレポートの提出がありました。24時間動いているぱれっとの中で、一堂に会するというのは至難の技で、今後もこうした2段構えの対応になっていくだろうと思います。私がありがたいと思うのは、そのレポートから関係者が本当に真摯に仕事に向かってくれている姿勢が伝わってきたことです。皆さん話をしっかりと受け止め、自らを振り返るという反応が多くありました。良い支援に向けての提案もいくつか見られました。そして何よりも、現場を越えて関係者が意見を交わす大切さを改めて感じた研修でした。

ぱれっとは長年「障がいのある無しに関わらず、同じ『人』として対等に」をモットーとして事業を展開してきました。先日虐待防止研修の振り返りをした際、「利用者をニックネームで呼ぶのは子ども扱い？」ということについて議論になりました。一般論として肯定的な意見がある一方、「就労の場では『支援』という言葉が比較的しっくり来るかも知れないが、ホームは基本的に『家』であるから家族と同じ感覚を大切にしたい」という声もありました。また、たまり場ぱれっとに関しては仲間づくりがテーマであることを踏まえるとどう考えたら良い？・・・などなど、様々な意見がありました。結論がすぐに出る話ではありませんが、ぱれっとの理念に関連する大事な意見交換でした。冒頭の研修を見ていると、立場に関係なくこうした根本的な議論を忌憚なくできる関係性が大事なのだな、必要なのだなと思った次第です。（みなみやま）